

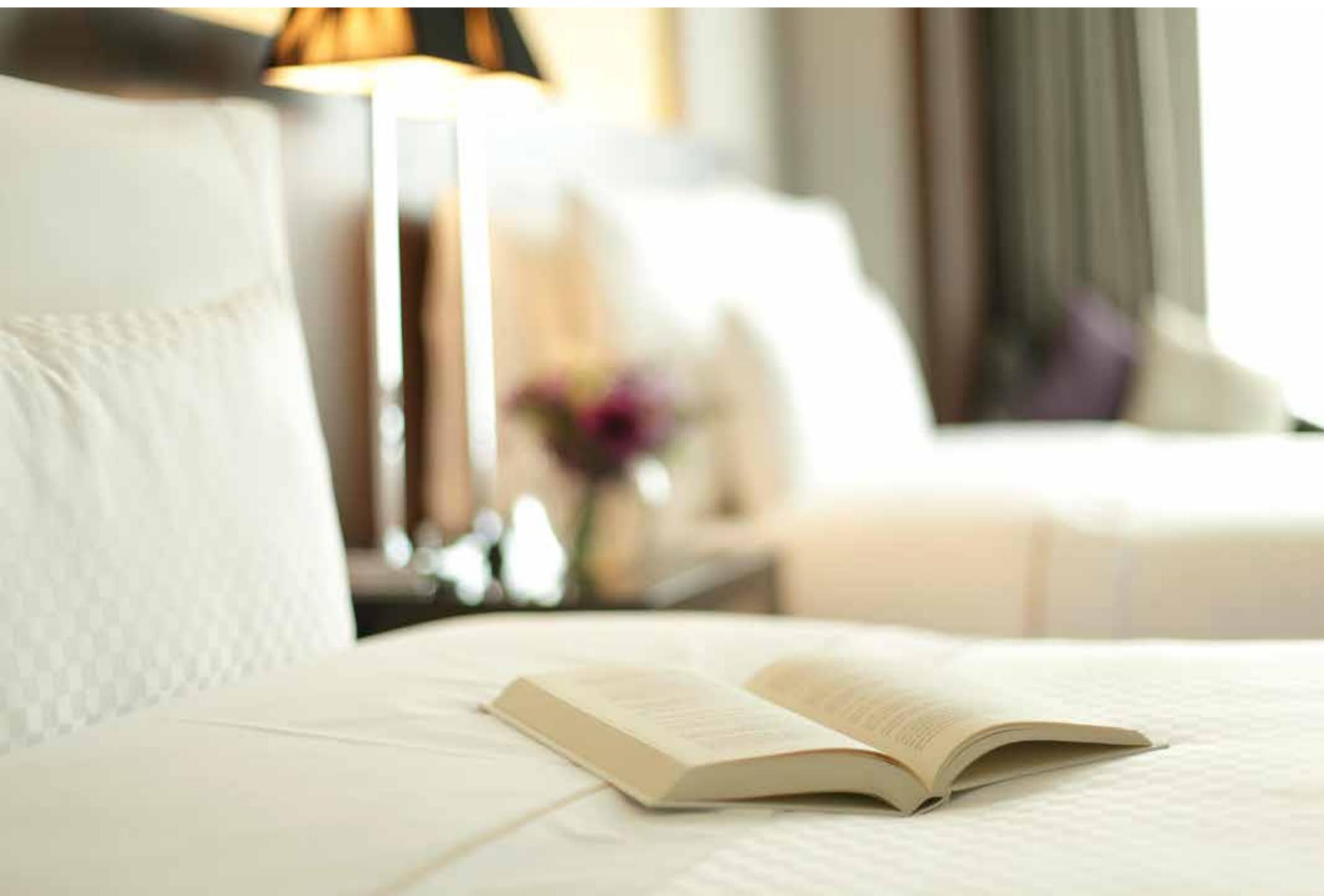
THE WESTIN

SENDAI

12ヶ月のブログリレー

わたしの仙台ストーリー

6月の旅人





- ・この地図は Google マップサービスを利用しています。
- ・地図内のルートは旅人の訪問地、訪問順に基づき、Google マップの仕様に合わせておすすめのルートを作成したもので、旅人が実際に使用したルートと異なる場合があります。
- ・当データからリンクしている Google マップページについては、Google の責任の下、管理されているものであり、Google に起因する不具合等について当ホテルはいかなる責任も負いません。



6月の旅人

AGIO/ALLEGRO 様 [東京都・男性]

まだ行ったことのない2013年6月開催の仙台国際音楽コンクールに足を運び、
仙台の魅力をもっと体感したい。



6月29日の午後。新幹線は仙台に到着した。曇り空の空気の中に微かな霧雨を感じる午後。駅からランドマークのように見えるウェスティンホテル仙台に向かって歩いて行く。

クラシック音楽が好きでコンサート会場に足を運んで生の音楽に浸るのが好きな私。今回の旅の目的は、6月に仙台で開かれる仙台国際音楽コンクールの現場に行ってみることだった。

若手演奏家を対象としたこのコンクールはバイオリン部門とピアノ部門に分かれており、当初、上旬に行われたバイオリン部門に行く予定だったが、この月は仕事が殺到し、休日出勤の連続が続く中、実現せず、下旬のピアノ部門に伺うことに変更した。スケジュールをやりくりして29日土曜の午後から翌日の昼まで仙台一人旅の時間をひねり出した。ピアノ部門のファイナルが行われるのは28日と29日なので、これだと2日目に会場に行ける。あとは前日に旅支度を済ませれば仙台で羽を伸ばすことができる…と既に気持ちは東京を離れていた。

ここで私は重大なミスを行っていた。コンクールのチケットを事前に手配するのをすっかり忘れていたのだ。前日の夕方にそれに気づき、コンクールのホームページを見ると大きく「チケット完売」の文字が出ている。開演は翌日の午後3時。コンクール事務局にあわてて電話してみたが「売り切れ」の一点張りでもさっさもいかない。これでは旅の目的が…。

この日は夜から仕事のパートナーを接待せねばならず、いろいろ動くには限界がある。自分のポカを責めつつ、ブルーな気持ちになっていた時にふっとひらめいた。「そうだ、ホテルのコンシェルジュに相談してみよう」。外国だと、入手の難しい人気のオペラやミュージカルのチケット手配は自分が宿泊するホテルのコンシェルジュにお願いすると上手く行くことがある。それが可能か否かもコンシェルジュやホテルの評価につながるといっても過言ではない。あれこれ考えている暇は無く、ウェスティンホテル仙台に電話してみた。

前日の夕方にも関わらずホテルのコンシェルジュの方は迅速に動いて下さった。気遣いの宴席の最中、午後10時に携帯が鳴り個室をそっと抜け出す。チーフコンシェルジュの若生さんからだった。「現在の所はまだチケットは入手できていませんが明日の開演時間までの間に出来る限りのことをやってみます」との心強い連絡。明日チケット入手できなかったら紙に「チケット求む」と書いてホール前に立とうか、なんて考えながら個室に戻っていった。

仕事のしがらみから解放された土曜日の朝、一人仙台に新幹線に向かう。昼過ぎに福島を抜け仙台が間近になってきた時に若生さんから連絡が入った。「チケットが1枚確保出来ました」。おお、神よ！旅行直前に発生した最大のピンチを切り抜け、列車は仙台駅に滑り込んだ。

6月

12ヶ月のブログリレー
わたしの仙台ストーリー



チーフコンシェルジュ 若生通彦さん

ホテルに到着すると若生さんが笑顔で迎えて下さり、チケットの受け取り方法などについてアドバイスを頂いた。まさに高品質のホテルの実力を実感した。

ホテルの部屋に入ると窓からは広瀬川が見え、目に優しい緑の多い風景が広がっている。天井が高い素敵な部屋だ。荷物を整理し早速街に出た。「チケット求む」と書けるように自宅から持参した紙とマジックペンはもちろん部屋に置いたままで。

コンクールは仙台駅から車で15分ほどの場所にある[仙台市青年文化センター](#)で行われた。1000席ほどのホールで、最終選考に残った6人のうち前日に弾き終えた3人を除いた残りの3人が舞台上に臨み、地元のプロオーケストラ、仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演、ピアノ協奏曲を演奏した。そのうち韓国からの2人はラフマニノフの協奏曲3番とチャイコフスキーのピアノ協奏曲1番、ウクライナの1人はプロコフィエフの3番と難曲揃いで、聴くこちらも体力が必要になる。演奏はどれも熱演で3人のうち誰が1位になってもおかしくないくらいだったが、演奏後の審査発表では、何とこの3人が1位から3位を分け合う結果となった。

青年文化センターを後にしてホテルに戻り、向かったのは26階のスパ。ここでフェイスの施術を受けることにした。かつて別のホテルのスパで背中中のマッサージを受けた経験はあるが、フェイスを受けるのは人生で初めて。シックな内装の男性専用個室に案内され、チーフセラピストの佐々木さんによる施術を受けた。最初は顔の洗浄から、そしてフィンランドで取れるという特殊な果実の成分が配合されたオイルで顔のマッサージ。気持ち良くていつの間にか眠ってしまった(笑)。鏡を見ると、自分の顔に張りがあるのが分かる。これはクセになりそうだ。新たな楽しみを知ってしまった感じがする。



男性専用個室でチーフセラピストの佐々木千佳さんの施術



施術前後は別室で冷たいドリンクを頂く

別室でドリンクを頂きながら、こんなにリラックスした状態になったのはいつ以来だろうと考えていた。時計を見ると午後9時過ぎ。夕食に街へ出よう。徒歩で向かったのは「源氏」という居酒屋。東北では名高い名店だ。

暗めの照明に鮎色のカウンター。和服に割烹着のおかみさんが切り盛りしている。ここはお酒の注文ごとにおつまみが自動的に付くシステムとなっており、日本酒と共に出された刺身やぬか漬け、冷ややっこなどを楽しんだ。



源氏の看板。店はこの横の細い路地の突き当たりにある



お酒と60年の長さを誇るぬか床に漬かった漬物は味わい深い

6月

12ヶ月のブログリレー
わたしの仙台ストーリー

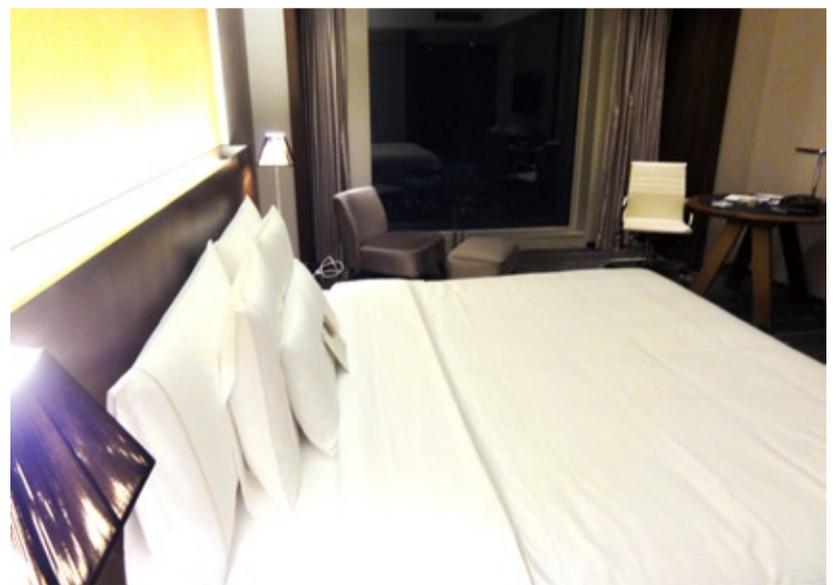


ラーメン屋さんの行列を見ると女性が多かった。

お腹が空いていたので半チャーハンとラーメン。

雰囲気とお酒を楽しむと時間の経つのは早いもの。締め麺でも食べようか。11時を回って街を歩くと駅近くに行列の出来ているラーメン屋さんを発見。早速列に参加してラーメンを頂く。隣の席にいた女性の一団は彼氏?にまつわるガールズトークを展開。仙台の「元気」は彼女らからも湧きあがっているようだ。

お腹も心も満たされ、ホテルの自室に戻るとフカフカのベッド。仙台での一日を反芻しながら一日を締めくくる。



横になったらすぐに寝入ってしまった。



翌朝は楽しみにしていた朝食。お惣菜系が充実していたのは嬉しい。これでワインが飲めそうだが、ちょっと我慢してフレッシュなオレンジジュースと共に頂いた。窓の外の景色もご馳走だ。



さて、24時間に満たない短い滞在だったが、仙台での時間は充実したものだった。午後は東京でまた仕事のアポイントがあるので後ろ髪を引かれる思いで仙台を後にする。帰りの新幹線の車窓からホテルが見えた。また近々ここに戻ってきたいと思う。